様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １３ 日現在

機関番号：３２６８６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ０２５９２

研究課題名（和文）グローバル水準の学校図書館専門職養成カリキュラムの開発研究

研究課題名（英文）Approaching to the global standard in education for professional librarians in schools

研究代表者
中村　百合子（Nakamura, Yuriko）

立教大学・文学部・教授

研究者番号：８０４１１０５７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：日本で現在進行する教育改革に参画する学校図書館専門職の実現に向けて，養成の高度化の将来展望を得るべく，養成教育の課程を具体的に検討することを本研究の目的とした。新しい養成教育の課程を検討するためには，先進諸外国の教育の実態を把握するとともに，養成に携わる国内外の関係者と議論をし，さらに，養成教育の課程案の一部を試験的に日本の大学で実施，検証する計画とした。一方で，日本の現在の司書教諭養成の実態に迫り，かつ日本国内の教育改革と教員養成高度化の動向を把握し，本研究が提案する学校図書館専門職養成教育の課程がそれらにいかに接続され得るかを検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では，学校図書館の専門職養成のグローバルスタンダードに日本のそれが近づくことを目指して，国際共同研究や国際シンポジウムの開催，授業の共同実施とその成果の検証，日本国内の養成の歴史の検討や現職者らの高度な学習へのニーズの把握に取り組んだ。また，学校図書館およびその専門職の使命や機能の“コア”を確認したい思いから，アメリカ図書館協会およびアメリカ・スクール・ライブラリアン協会の関連文献３点の翻訳を行った。そうした学術活動を研究者以外の方たちに同時に直接発信していくべく，研究論文はすべてオープンアクセスとしただけでなく，ウェブサイトTANE.infoを開設し，わかりやすい情報発信に努めている。

研究成果の概要（英文）：To propose ways to advance the training of school librarianship in Japan, we conducted a series of research through international collaboration. We hold three international events: 1)International School Librarians’ Forum of East Asia 2018; 2)Road to the Future: School and Children's Librarianship (2019); 3) Road to the Future: Discussion for Developing the International Children’s Literature Course (2022). We translated three ALA/AASL official documents, which are "Core Values of Librarianship," "Standards for Libraries in Higher Education," and "AASL Standards Framework for Learners" to see the core of school librarianship mission and functions. The history and the present status of training of school library specialists in Japan is also examined. In 2021, courses of "International Children's Literature" are offered as trials in San Jose State University and Rikkyo University and the experience is examined collaboratively afterward to further collaboration in the future.

研究分野：学校図書館学

キーワード：学校図書館　学校図書館専門職　専門職養成　情報リテラシー　司書教諭　学校司書　児童サービス　大学間連携

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

近年，日本では探究的な学習や主体的・対話的で深い学びの実現，言語力や情報活用能力をはじめとする各種リテラシーの育成が活発に議論され，実現しようとされている。本研究では，そうした教育改革に貢献する学校図書館専門職養成を実現する方途を明らかにしたいと考えた。背景として，日本国内の教員養成の高度化の議論から，日本の学校図書館専門職，具体的には司書教諭と学校司書が取り残されていることがあった。また，戦後初期，1953 年に制定された学校図書館法に定められるその養成制度は，いまだにグローバル水準にはほど遠い状況にあり，日本独自の養成にとどまっている。そのような養成の現状についても明らかにし，課題を明確にして高度化への道筋を見いだしたいと考えた。

２．研究の目的

日本で現在進行する教育改革に参画する学校図書館専門職の実現に向けて，養成の高度化の将来展望を得るべく，養成教育の課程を具体的に検討することを本研究の目的とした。新しい養成教育の課程を検討するためには，先進諸外国の教育の実態を把握するとともに，養成に携わる国内外の関係者と議論をし，さらに，養成教育の課程案の一部を試験的に日本とまた他国の大学で実施，検証する計画とした。一方で，日本の現在の司書教諭養成の実態に迫り，かつ日本国内の教育改革と教員養成高度化の動向を把握し，本研究が提案する学校図書館専門職養成教育の課程がそれらにいかに接続され得るかを検討することとした。

３．研究の方法

本研究は，次の二つのアプローチで行った。一つ（①）は，グローバルスタンダードへの接近というアプローチであり，もう一つ（②）は，日本国内の学校図書館専門職養成教育の課程の課題の明確化というアプローチである。

前者のアプローチ①としては，国際的な共同研究によって，今，また近い将来の学校図書館専門職に求められる資質･能力を検討したうえで，試験的な共同教育実践を実現しそれを検証することによって試みることとした。しかしその際に大きな問題となるのが，欧米の学校図書館専門職養成はそのほとんどが修士課程レベルもしくは学部卒業後レベル（Post-graduate Diploma か Post-graduate Certificate）で行なわれているが，日本の司書教諭資格付与と「学校司書のモデルカリキュラム」は，学部卒業を見越して，学部生が履修可能として制度化されているということである。これについては，共同研究をつうじて世界各国の大学間，教員間の相互理解を深め，国際連携による互いの養成教育の課程の充実の糸口を探るところからはじめることが必要だと考えられた。

本研究の二年目から三年目には，養成教育の課程の一部科目を諸外国の養成機関と共に検討し，シラバスを共同作成し，試験的に実施し，その有効性の検証を行ない，実施結果を検証することとした。この作業の中で，学校図書館およびその専門職の使命や機能について合意される“コア”を確認することを想定した。同時に，参加各養成機関で自身の教育の課程の中にこの共同実施科目をいかに位置づけることができるかを模索し，将来の共通カリキュラム，単位互換への展望を得たいと考えた。なお，オンライン教育の試験的な導入を，本科研費申請の段階では，挑戦的な取り組みとして想定していた。よって，協働のパートナー大学（院）としては，諸外国の先進的なオンライン教育の取り組みで知られる養成機関と交渉していた。コロナ禍を経てオンライン教育は日本の大学でも一気に普及したため，研究の新規性としてその点をことさらに取りあげることは最終的には断念した。

後者のアプローチ②としては，国内の教育改革と教員養成高度化の動向を把握するとともに，国内の学校図書館専門職養成の教育の実態と課題を把握し，それらを接続する方法を検討することとした。さらに，上記の①で行うことになる試験的な教育実践を日本でも行い，その妥当性を日本の教育改革，教員養成，学校図書館専門職養成の関係から検証することとした。

４．研究成果

①のグローバルスタンダードへの接近というアプローチと，②に関連して，学校図書館専門職養成の教育の高度化に向けての国内のニーズの把握として，次のように，英語での国際的なイベントを３回，開催した。

１）2018 年 6 月 2 日（土），7 月 28 日（土），9 月 22 日（土）；横浜，神戸，大阪；International School Librarians' Forum of East Asia 2018（東アジアインターナショナル・スクールライブラリアンズ・フォーラム 2018）（記録；参加記掲載誌）

２）2019 年 8 月 4（日）；札幌；「Road to the Future: School and Children's Librarianship 子どものための図書館サービス専門職養成の国際動向」（日本語への通訳あり）（記録掲載誌）

３）2022 年 1 月 28 日（金）；オンライン；「Road to the Future: Discussion for Developing the International Children's Literature Course」（記録掲載誌）

これらのイベントは，本研究の後半での実施を予定した国際共同研究としての，試験的な共同教育実践の実施と検証につなげる目的で企画・実施された。もともとは１）を実施して高度化された養成教育に対する国内のニーズを把握し，２）で国際的な養成教育の課程の現状を知ることで国内外の実態や課題を一定程度把握できると考えていた。しかし，２）から共同教育実践の模索の間に，コロナ禍にみまわれ，非常に困難があった。それはコロナ禍によるコミュニケーションの困難さでもあったが，それだけではなく，想定されていたとおり，先進諸外国での大学院レベルでの養成教育と日本の学部レベルで制度化されている養成教育の接続の方途を考えるのには，かなり丁寧なコミュニケーションを繰り返す必要があったということである。お互いの現在の制度の変更は国外からの小さな要請で実現するようなものではなく，両者を接続させるためには知恵を絞る必要があった。大学院レベルと学部レベルという問題だけでなく，学期（時期；学期の長さ），各養成教育の課程の目的（学生からの期待や教員の資質や考えの違い），教授言語も異なり，それらについても一つの科目の国際的な連携による提供を実際に進めようとすると，小さい問題ではないことが次第に明らかになった。相互理解は少しずつ進んでも，特に，欧州や日本の制度に対する北米の確立された“専門職”養成教育の課程からの歩み寄りは一足飛びに求められるものではないことも明らかになった。そこで最終的には，一部科目の試験的な実施において広範囲の連携は不可能であり，大きく趣旨に合意したうえで，それぞれの大学の事情にあった科目提供を実現することで合意した。そして，その経験をもち返ってさらなる相互理解とその後のより規模の大きな協働への展望を得るべく，３）を実施することとした。

また，学校図書館およびその専門職の使命や機能の“コア”を確認したい思いから，米国の図書館専門職団体である American Library Association（ALA=アメリカ図書館協会）およびその下部組織である American Association of School Librarians（AASL=アメリカ・スクール・ライブラリアン協会）の関連文献の翻訳を行った。具体的には，「Core Values of Librarianship（司書職の中核にある価値）」;「Standards for Libraries in Higher Eduation（高等教育における図書館基準）」;「AASL 学校図書館基準フレームワーク（AASL Standards Framework for Learners」）」である。立教大学所属の大学院生や職員と協働し，原文への理解を深める作業を丁寧に行って，翻訳に至り，原文書の著作権保持者である ALA と AASL からの許可を得て，インターネット上に公開した。

②のアプローチとしてはまず，国内の学校図書館専門職養成の教育の実態を把握するべく，事例調査と文献を行って論文（査読付）にまとめた（中村百合子「夏の司書教諭講習の実態：歴史的変遷と 2016 年の事例調査から」『図書館文化史研究会』2020，p.31-63.）。ここで明らかになったことは，適切な講師の確保，講師間のコミュニケーションの欠如，昨今の現職教員である受講生の多忙さといった制度上の課題であり，熱心な受講生や科目担当講師の存在であった。つまり，制度から生じている困難さを，各講師や実施機関の関係者，また受講生も認識しながら，開講や受講をするならばと個々人が大きな努力によって制度上の課題を最小化しようとしているという事実である。この研究では，インタビュー調査は 2016 年に実施した夏の講習についてであるが，文献調査としては，戦後から最近のものまで，また夏の講習のみならず大学に設置されている司書教諭資格付与の課程まで網羅的に対象とした。その歴史の検討からは，司書教諭資格付与の課程が，養成の直接的なニーズを大幅に超えた資格の付与を行ってきた背景には，教員免許状の付与や高等教育の戦後史があることは明白であったが，その具体的な影響の分析は行いきれず，今後の課題として残った。

一方で，前述の 2018 年の School Librarians' Forum of East Asia 2018（東アジアインターナショナル・スクールライブラリアンズ・フォーラム 2018）では，日本国内に，先進諸外国の動向をふまえた学習ニーズは，自覚する人の数は少ないかもしれないが存在することは確かめることができた。参加者に対する事後の調査では，さらなる学習に対して，異なる職名で働く参加者から多様な，しかしきわめて前向きな回答が得られた（中村百合子，森田英嗣「日本での学校図書館関係教職員の英語による専門学習ニーズ：ISLF2018 の事後調査を通して」『St. Paul's Librarian』No.33, p.197-211, 2019.）。一方で，同フォーラムは本科研費を用いて無料で提供しており，有料での教育プログラムになった時にどれだけのニーズが実際に現れてくるかについては見通すことができない。

上記のような取り組みを経て，予定最終年度 2020 年度から延長した 2021 年度に，次の二つの研究のまとめにあたる作業を行った。一つには「探究」をテーマとしたキュレーションサイト TANE.info（たね・どっといんふぉ）の開設である。これは，国内で調査をとおして各地の司書教諭資格付与の課程の運営に関わる方たちに出会い，また国際イベントを開催することを繰り返した中で，研究と実践をつなぐ情報発信が必要だという認識にもとづき決定した。研究成果がオープンアクセスであるのはもちろんのこと，研究者が自身の研究を研究者以外の方たちにも伝わるように発信していくことが求められていると思われた。そこで，本科研費研究から生み出された研究成果をより多くの方たちに日本語で伝えることを目的として，上記サイトを開設した。英語で実施したイベントの記録は英語のまま紀要でオープンアクセスで公表するとともに，このサイトでは，日本語で，背景も含めてわかりやすく紹介した記事を掲載した。また，研究者だけでなく，図書館や IT 企業で働く方たちにも依頼し，実際の学習/教育のいとなみや動向を伝

える連載をしていただいている。

もう一つには，2021 年度夏/秋に，アメリカ合衆国カリフォルニア州のサンノゼ州立大学情報学大学院（School of Information, San José State University）と立教大学学校・社会教育講座司書課程で同時に「International Children's Literature（国際児童文学論）」の科目を試験的に実施した。2018 年の国際シンポジウム終了直後の登壇者らによる意見交換においては，それぞれの大学（院）の教育課程をどこまで接合できるかについて多くの時間を割いて議論したが，各教育課程の責任者が集まってすら，各国・各大学（院）の制度上の変更の議論は接点を見つけることから困難であった。そこで，最も効果的かつ効率的に協働でき，関わるすべての大学にとって意味があるとして合意されたのが，「International Children's Literature（国際児童文学論）」の科目提供であった。これは，図書館資料論として，また国際理解や他者理解，包摂にまつわるテーマとしても，価値があると考えられた。同じ「International Children's Literature」の科目名のもとで，各大学の養成教育課程および科目担当者がシラバスを用意し，部分的に協働しながらも，基本的には各大学で 2021 年秋学期に授業を実施することとした。前に述べた二大学がで科目提供が実現した。

「International Children's Literature」という言葉は，1998 年から，*Journal of the International Board on Books for Young People*（IBBY（国際児童図書評議会）発行）という国際的に著名な雑誌のサブタイトルになっている。それ以前には 1989 年に，*Early Child Development and Care* という雑誌が「International Children's Literature」を特集している。とはいえ，類似の内容を意味するだろう，多文化（multicultural）の児童文学；世界（中）（from all over the world）の児童文学といった言い回しや，特定の国や文化圏における児童文学についての議論が一般的であった。しかし 2017 年には，「International Children's Literature」が書名に含まれる *The Routledge Companion to International Children's Literature* (edited by John Stephens, Celia Abicalil Belmiro, Alice Curry, Li Lifang, & Yasmine S. Motawy, London: Routledge）が出版されるなど，近年，「International Children's Literature」という表現の聞かれることが増えた。

ただ，これを授業のテーマとして実際に米国と日本の大学で科目を提供するのには，次のような課題があった。ｱ. 科目担当者等への適切な専門家の確保；ｲ. 通訳や翻訳の必要性；ｳ. 国際的な出版流通の正確な把握と出版社などとのやりとり；ｴ. 各地域の文化的背景からくる児童・青少年や学生が求めることの相違；ｵ. 大学が求めることの相違；ｶ. 異なる文化的背景における（学校）図書館専門職の役割の相違。また，日本においては，法律を背景として，司書教諭資格付与の課程が必修科目のみで構成されていることから，こうした特別な科目の設置そのものが容易ではなく，2021 年度の立教大学の司書課程における試験的実施は司書資格付与の課程の選択科目である「図書館情報資源特論」で「International Children's Literature」を全面的に取りあげるという形で行うしか方法が無かった。こうした制度上の困難はどこの国の高等教育機関にもあることだが，お互いに理解するまでには大変な手間がかかることが普通であろう。

「International Children's Literature」の科目の試験的実施を経て 2022 年 1 月 28 日（金）に実施した公開シンポジウムは，時差から欧州・北米・日本での調整が厳しかったが，コロナ禍もあり，オンラインで行った。その中で，上述のアメリカ合衆国と日本の二つの大学での科目の試験的な実施と，カナダとスペインの大学（院）における「International Children's Literature」の取り扱いが報告されるだけでなく，極めて国際色豊かな参加者の間で充実した意見交換が実現した。各地・各国での多文化社会における他者理解の促進のための児童・青少年文学の価値が共通理解とされるメンバーの間で，それをさらに国際的な取り組みへと発展させることの意義が実感された。まずはこの国際シンポジウムへの参加者とともに，今回の試験的な科目提供を少しずつ大きな動きに展開させていく考えである。本研究の二つのアプローチの研究から，大学間の国際連携による共同提供科目の実施という切り口が，長年，日本独自の養成にとどまっていた国内の学校図書館専門職養成に一つの変化の道筋を示していくことになる可能性を認識した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計34件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　31件）

１．著者名 Mary Ann Harlan and Yuriko Nakamura	４．巻 36
２．論文標題 Introduction: Road to the Future Discussion for Developing the International Children’s Literature Course	５．発行年 2021年
３．雑誌名 St. Paul's Librarian	６．最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 Keiko Aoyagi, Miyuki Nakayama, and Yuriko Nakamura	４．巻 36
２．論文標題 Education about Children’s Literature in the Rikkyo University Librarian Course	５．発行年 2021年
３．雑誌名 St. Paul's Librarian	６．最初と最後の頁 5-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Lynne Wiltse	４．巻 36
２．論文標題 Teaching Children’s Literature to Education Students in a Multicultural, Multilingual Society	５．発行年 2021年
３．雑誌名 St. Paul's Librarian	６．最初と最後の頁 13-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Mary Ann Harlan and Leah Phillips	４．巻 36
２．論文標題 Introducing Issues in an International Children’s Literature Course in a LIS school	５．発行年 2021年
３．雑誌名 St. Paul's Librarian	６．最初と最後の頁 20-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Cristina Correro Iglesias	4．巻 36
2．論文標題 Teaching Children’s Literature Teaching from a Glocal Perspective: The Universitat Autnoma in Barcelona as an example of an institution creating academic offerings and international networks on children’s literature	5．発行年 2021年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 25-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Joan Portell Rifa	4．巻 36
2．論文標題 Children’s Literature in Latin America and Spain	5．発行年 2021年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 31-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Susan La Marca	4．巻 36
2．論文標題 Australian Children’s and Young Adult literaure	5．発行年 2021年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 45-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 森田英嗣，五十里元子，田島知之，西村寿子，藤井玲子	4．巻 70
2．論文標題 沖縄「慰霊の日」報道はどう構成されているか ： 2018年6月24日の新聞分析から	5．発行年 2022年
3．雑誌名 大阪教育大学紀要　人文社会科学・自然科学	6．最初と最後の頁 121-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32287/TD00032217	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 荊木まき子，森田英嗣，鈴木薫，枝廣和憲	４．巻 14
２．論文標題 多職種連携教育（IPE）における養成学生の専門性理解：模擬ケース会議を通じて	５．発行年 2021年
３．雑誌名 就実教育実践研究	６．最初と最後の頁 67-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 荊木まき子，森田英嗣，平野貴大	４．巻 51
２．論文標題 オンライン版多職種連携教育における模擬ケース会議：多職種連携教育における専門性理解	５．発行年 2021年
３．雑誌名 就実論叢	６．最初と最後の頁 173-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中村百合子	４．巻 37
２．論文標題 夏の司書教諭講習の実態：歴史的変遷と2016年の事例調査から	５．発行年 2020年
３．雑誌名 図書館文化史研究	６．最初と最後の頁 31-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 森本洋介；松本寿一；森田英嗣	４．巻 68
２．論文標題 動画の読み解き能力を習得するためのオンライン教材〈VVCweb〉試験版の学習効果	５．発行年 2020年
３．雑誌名 大阪教育大学紀要．人文社会科学・自然科学	６．最初と最後の頁 109-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32287/TD00031567	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中村百合子	4．巻 56
2．論文標題 図書館とは何か	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Voters	6．最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中村百合子	4．巻 35
2．論文標題 アメリカの学校図書館基準とは？	5．発行年 2020年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 青柳啓子	4．巻 35
2．論文標題 「児童サービス論」テキストのあり方を資料論とサービス論の構成比から考える	5．発行年 2020年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 66-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 東山由依；瀧上幸子；手島善人；スタルクキリアン；西村あす実；木下真希；加藤結衣；狩野瑞穂；小泉徹；布施芳一；中山美由紀；青柳啓子；ハモンドエレン；中村百合子	4．巻 35
2．論文標題 （翻訳）AASL学習者基準フレームワーク	5．発行年 2020年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 76-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 藤原芳行; 中村百合子	4．巻 35
2．論文標題 （翻訳）司書職の中核にある価値観	5．発行年 2020年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 84-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 藤原芳行; 中村百合子	4．巻 35
2．論文標題 （翻訳）高等教育における図書館基準	5．発行年 2020年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 87-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 下田尊久	4．巻 No.379
2．論文標題 子どものための図書館サービス専門職養成の国際動向＜報告＞	5．発行年 2019年
3．雑誌名 カレントアウェアネス-E	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Nakamura, Yuriko; Hammond, Ellen; Morita, Eiji; and Shimoda, Takehisa	4．巻 34
2．論文標題 Education for national-level certification of library personnel in Japan	5．発行年 2019年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hirsh, Sandra; and Harlan, Mary Ann	4．巻 34
2．論文標題 San Jose State University School of Information: School Overview and Teacher Librarian Program	5．発行年 2019年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 11-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Branch-Mueller; Jennifer L.	4．巻 34
2．論文標題 Road to the Future: Understanding the MEd in Teacher-Librarianship at the University of Alberta	5．発行年 2019年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 26-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Correro Iglesias, Cristina	4．巻 34
2．論文標題 School and Children’s Librarianship in Spain	5．発行年 2019年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 33-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 今井福司	4．巻 34
2．論文標題 学校図書館専門職の養成現場において“デジタル・デバイド”を起こさないために	5．発行年 2019年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 青柳啓子	4．巻 34
2．論文標題 ‘Road to the Future’が提示した 今後の司書の専門性について	5．発行年 2019年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 123-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 鈴木史穂	4．巻 34
2．論文標題 学校司書のリカレント教育を考える：学校図書館をよりよくしていくために	5．発行年 2019年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 126-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中島幸子	4．巻 37
2．論文標題 日本における遠隔教育による司書教諭資格付与の現状と課題：大学通信教育課程とeラーニング（メディア授業）を事例として	5．発行年 2020年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 85-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中村百合子	4．巻 37
2．論文標題 夏の司書教諭講習の実態:歴史的変遷と 2016 年の事例調査から	5．発行年 2020年
3．雑誌名 図書館文化史研究	6．最初と最後の頁 79-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中村百合子	4．巻 2019年11月号
2．論文標題 OED，ああこの辞書の存在の偉大さよ	5．発行年 2019年
3．雑誌名 英語教育	6．最初と最後の頁 92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中村百合子，森田英嗣	4．巻 33
2．論文標題 日本での学校図書館関係教職員の英語による専門学習ニーズ：ISLF 2018の事後調査を通して	5．発行年 2019年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 166-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Yuriko Nakamura	4．巻 vol.24, no.1
2．論文標題 Possibilities of Modern School Libraries in Pesantren in Indonesia: A Case Study with Two Young Muslim Women	5．発行年 2018年
3．雑誌名 School Libraries Worldwide	6．最初と最後の頁 57-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1426/jo5241004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中村百合子，ハモンドエレン	4．巻 33
2．論文標題 （翻訳）すべての人のためのアーカイブズ：アメリカ合衆国でさらに包括的なアーカイブズを創る	5．発行年 2019年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 9-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中村百合子，古賀崇，ハモンドエレン	4．巻 33
2．論文標題 （翻訳）デジタル時代の挑戦時会：レコードキーピングの展望	5．発行年 2019年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 21-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中村百合子，古賀崇，ハモンドエレン	4．巻 33
2．論文標題 （翻訳）アーカイブズとレコードキーピング：オーストラリアの視点	5．発行年 2019年
3．雑誌名 St. Paul's Librarian	6．最初と最後の頁 43-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　1件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 Nakamura, Yuriko
2．発表標題 Major Trends in Education and School Libraries in Japan
3．学会等名 圖書館學習新體驗：港日交流會 New Learning experiences with Libraries（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 Nakamura, Yuriko; and Morita, Eiji
2．発表標題 International Collaboration in School Library Education Programs: Needs and Requirements
3．学会等名 The 48th Annual Conference of the International Association of School Librarianship（国際学会）
4．発表年 2019年

〔図書〕　計3件

1．著者名 中村百合子編，中村百合子，河野哲也著	4．発行年 2022年
2．出版社 樹村房	5．総ページ数 247
3．書名 改訂　学校経営と学校図書館	

1．著者名 渡辺武達，金山勉，野原仁（編）	4．発行年 2019年
2．出版社 世界思想社	5．総ページ数 368（310-311）
3．書名 メディア用語基本事典〔第２版〕（中村百合子「図書館の変容」）	

1．著者名 渡辺武達，金山勉，野原仁（編），阿部康人，有山輝雄，飯塚浩一，池田謙一，池田雅子，市村元，伊藤高史，伊奈正人，クンツウイリアム，植村八潮，元容鎮，海野敏，梅田ひろ子，遠藤徹，大井眞二，大島十二愛，中村百合子ほか（著）	4．発行年 2019年
2．出版社 世界思想社	5．総ページ数 368（310-311）
3．書名 メディア用語基本事典〔第２版〕（中村百合子「図書館の変容」）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

子どものための図書館サービス専門職養成の国際動向 = https://www.youtube.com/watch?v=fhamyRE7p34
International School Librarians’ Forum = https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/islf2018/
AASL学習者基準フレームワーク翻訳プロジェクト = https://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/certification/librarian/project2020.html
ALA「司書職の中核にある価値」翻訳プロジェクト = https://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/certification/librarian/project2020_2-ala.html
ACRL「高等教育における図書館基準」翻訳プロジェクト = https://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/certification/librarian/project2020_3-acrl.html
探究を支えるキュレーション・サイト = https://tane.info

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	森田　英嗣 (Eiji Morita) (50200415)	大阪教育大学・その他・副学長 (14403)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計3件

国際研究集会 Road to the Future: Discussion for Developing the International Children’s Literature Course	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Road to the Future: School and Children's Librarianship 子どものための図書館サービス専門職養成の国際動向	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 International School Librarians’ Forum of East Asia 2018	開催年 2018年～2018年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	San Jose State University			
カナダ	University of Alberta			
スペイン	Autonomous University of Barcelona			